

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

№77

令和元年7月17日
大牟田市Iネットスクール
担当者通信

ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in 大牟田

一学期がもうすぐ終わります。一学期も各学校の特色を生かしたESDの充実した取組が行われたことと思います。

さて、夏季休業中の8月22日(木)に、「ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in 大牟田」が開催されます。午前中には、「我が国におけるSDGsの取組と展望」の演題で外務省国際協力局の甲木浩太郎先生の講演、そして「SDGsと教育」の演題で東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員の及川幸彦先生の講演があります。午後からは、「SDGsの達成を目指した、ESDのさらなる充実」をテーマに全国からの実践発表が行われるなど、本年度の実践交流会はSDGsに焦点を当てたものとなっています。SDGsについての理解を深め、2学期からのESDの充実へのヒントを得る絶好の機会です。先生方の積極的な参加をお待ちします。

特色ある実践事例の紹介

人と地域とつながる

歴木中学校



歴木中学校では、1年生は福祉体験学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育体験学習を中心に、社会に大きく視野を広げ、持続可能な社会の担い手としての生き方を考え、行動できる生徒の育成をめざしています。

昨年度の2年生は、「2日間だけ、社会人になる」をキーワードに、29の事業所に分かれて、二日間、実際に仕事を体験させていただきました。この職場体験学習は「勤労観、職業観の育成」「新たな自分の発見」

「コミュニケーション能力や人間関係の大切さの体得」「学校と社会のつながり」の場となりました。

学習を通して、生徒は「お店の方々が丁寧に教えてくださり、作業するときのコツやいつも笑顔で接客する姿の大切さが分かりました。自分たちが作ったものを買ってくださる喜びを感じました。」という生徒の感想がありました。



職場体験する生徒

地域の宝物「玉川の生き物と自然」を通して



玉川小学校

4年生は校区を流れる鳴川に行き、生き物を調べたり、CODパックテストを行ったりして、鳴川の水質や生息する生き物の特徴、自然環境との関連について学習しました。調査の結果、鳴川の透明度は非常に高く、その美しい水が玉川校区で栽培されている農作物の評判につながっていることが分かりました。学習を通して、玉川校区の宝物である美しい鳴川を守っていくために、これからのような取組ができるのかということも考えることができました。

学習したことや鳴川を大切にしたいという思いは、学習発表会や地域のお祭りで発信しています。



鳴川の水質調査をする子どもたち

「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」を通して



倉永小学校

4年生は、それぞれの国や民族、身近な地域には、多様な文化や価値観が存在することを理解し、尊重することができることをねらいに学習しています。音楽科から課題をつくり、日本文化(和太鼓・茶道)のよさを知り、演奏等を通して、保護者・地域等に発信しています。

また、地域や社会福祉協議会の方々をGTとして招いて門松づくりに取り組み、校区にある施設等に渡して地域とのつながりを大切にしています。

一連の活動を通して、誰もが誇りに思いつながり合う校区、社会を実現するためには、つながりを大切することに気付き、自分の生き方を考える子どもたちに育っています。



地域の高齢者とふれあう子ども